

## 子ども、家族、学校、地域の みんなの力でつかんだ勝利

### 奇跡の大逆転劇

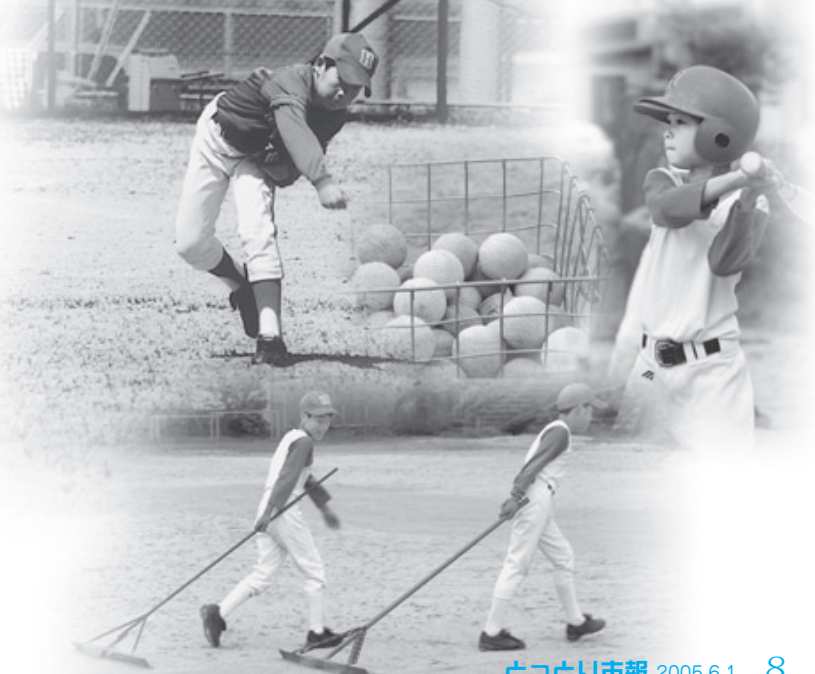
最終回、2対5、ツアアウトランナーなし。応援席では誰もが負けたと思った瞬間、グラウンドでは奇跡の大逆転劇が始まったのです。5月8日（日）、気高町日光の野球グラウンドで行われた「第25回全日本学童軟式野球大会鳥取県大会」の鳥取市気高ブロック予選会の決勝戦でのこと。3点差を追う最後の攻撃で、ツアアウトから打者が一巡する猛攻で一挙に6点を奪い、



左  
前田保幸さん  
Yasuyuki Maeta

右  
長谷川哲夫さん  
Tetsuo Hasegawa

## ひ おき 日置スポーツ少年団 野球部



相手チームがほぼ手中にしていた勝利を、日置スポーツ少年団野球部はみんなの力で勝利を導き寄せました。また、その10日ほど前のみどりの日に開催された「鳥取市スポーツ少年団軟式野球交流大会」でも、堂々の優勝を飾っています。

### 総児童数44人 子どもは日置の宝

今回ご紹介する日置スポーツ少年団野球部は、青谷町東部の谷あいの日置小学校にあり、総児童数44人、そのうち

野球部員は女の子2人を含む2年生から6年生までの13人です。「和紙の里」として知られる日置は、古くから製紙業が盛んで、ここで生産される因州和紙は全国で初めて伝統工芸品に指定されました。

同野球部の結成は今から20年以上前。結成当時からずっと関わり、地元で製紙業を営む傍ら監督として15年間、子どもたちを指導していらつしやる前田さんにお話を伺いました。「以前は6年生の1学年だけでチームを作っていま

したが、ここ数年、子どもの数が減ってきて、今は3年生も試合に出ています。自分しかいないという責任感と自発性、さらに、小規模校ならではの、上級生が下級生の面倒をみるというリーダーシップもこういった環境で自然に生まれていると思います。とにかく野球の好きな子どもたちがばかり。試合のたびに力をつけていくのを感じます。子どもたちは日置の宝。そんな子どもたちの適性をみて、叱り、そしてほめながらやっています